

11.8%であるのに対し、第1五分位（貧困層）では42.2%と4倍近い数値となっている。これは、リッジ（2002）がイギリスの貧困層の子どものインタビューを通して分析した結果と同様に、これら活動にかかる諸経費や親の時間の制約（その活動までの交通手段が確保できないなど）が、子どもの生活を大きく規定していることを示している。リッジ（2002）は、これらの活動に従事できないことが、子どもの社会生活を営む上で、社会的排除の要因ともなっていることを指摘しているが、日本においても同様の状況であることが懸念される。

<表6 塾・習い事・スポーツクラブのある日数、SES別>

4) 平日の下校から就寝までの1人で過ごす時間

2)の分析（表5）では、「放課後を1人で過ごす」（複数回答）とした子どもは約5%と、20人に1人の割合であり、SESによる統計的に有意な差はみられなかった。7歳という年齢を考えると、まだまだ1人で過ごさせるのには心配な年齢であるが、それでは放課後に限らず、下校から就寝までの間に1人で過ごす時間については、どうであろう（表7）。

表7によると、1人での時間が「まったくない」とする子どもは全体の約6割であるが、貧困層の子どもの方が若干高い率となっている。しかし、「ある」とする子どもの1人での時間別内訳をみるとSESによる違いがより鮮明になってくる。SESに見ると、「30分未満」については、貧困層の子どもが18.2%なのに対し、そうでない子どもは22.1%となっているが、「30分~1時間」「1時間~2時間」とそれ以上のすべての時間幅において貧困層の方が高い率となっているのである。このデータに含まれる「1人での時間」には家族等が自宅にいて、子どもが子ども部屋等で、ひとりで過ごしている時間も含まれるため、必ずしも1人での時間すべてが子どもにとって危険であったり、孤独であるわけではない。7歳の子どもということ考えると、30分か1時間程度の時間であれば、1人で遊んだり、宿題をしたり、本を読むことも考えられるであろう。しかし、1時間以上、2時間以上というのは、通常は、あまり考えられないのでないであろうか。そこで、1時間以上「1人で過ごす」子どもの率を再掲して見ると、貧困層では10.3%、非貧困層では8.6%となり、また、所得五分位で見ると、第1と第5で他の五分位よりも高い率となっていることがわかった。所得が一番高い層と一番低い層において、同じように「1人での時間」が長いという事実は解釈が難しく、「1人での時間」の中身をより詳しくみてみないと断定はできないものの、リッジ（2002）やラリー（2003）の分析から推測すると、貧困層では、同居家族が家に不在、または、忙しくて子どもにかまっていられない、富裕層では子ども部屋が与えられており、子どもが親と別の部屋で遊んだり、勉強をしたりする時間が長いのではと考えられる。

世帯タイプ別では、ひとり親世帯では12.8%、ふた親世帯では8.7%と、やはり、ひとり親世帯の方が高い率で子どもが1人である時間が長い。

<表7 7歳児が放課後を過ごす場所（複数回答）、SES別>

4. 友人との関係

1) 友だちと遊ぶ時の友だちの人数（放課後、休日）

次に、子どもの交友関係について、より詳しく見ていこう。表8は、分析対象児（7歳児）が友だちと遊ぶ時の友だちの人数（放課後）である。貧困ステータスで見ると、「1人」「2人」「3人以上」のどれも非貧困層の方が、貧困層よりも高い率となっており、逆に「友だちと遊ばない」と答えたのは、貧困層の方が高い。平均値で見ても、貧困層は2.134人、非貧困層は2.093人となっている。所得五分位で見ると、やはり第1五分位（貧困層）が一番高い割合で「友だちと遊ばない」として回答しているものの（8.7%）、第5五分位でも2番目に高くなっており、中間層は低くなっている。ここでも、貧困層と富裕層の両端で「友だちと遊ばない」とする子どもが多いのが特徴的である。この解釈も推測の域を出ないものの、富裕層では放課後に塾や習い事に従事することが多いため、友だちと遊ぶ時間がなく、貧困層では、逆に、孤立の状況が垣間見れるのではないであろうか。一方で、「3人以上」と遊ぶとした子どもの率は、第5五分位（富裕層）で一番高くなっている。富裕層は、学童保育に行っている割合も高いので、学童保育の友だち大勢を遊ぶからとも考えられる。

まとめると、富裕層の子どもは「まったく友だちと遊ばない」とする率も中間層よりも高いが、3人以上の大勢と遊ぶ率も高く、全体としては、一番たくさんの友だちと接している。一方で、貧困層の子どもは「まったく友だちと遊ばない」率も一番高く、また、遊ぶ時も中間層や富裕層に比べて少人数の率が多いため、接する友だちの人数が他の層よりも少ない。

<表8 7歳児が友だちと遊ぶ時の友だちの人数（放課後）、SES別>

この状況は、休日では、異なる傾向を見せている（表9）。休日では、ほぼ半数の子どもは「友だちと遊ばない」と回答しているが、所得が高い層であるほど、その率が高くなっている。これは、1)の親との時間を見たように、休日は所得の高い層は親と過ごす時間が長くなり、友だちと過ごす時間が少なくなることの表れとも言える。

<表9 7歳児が友だちと遊ぶ時の人数（休日）、SES別>

2) 遊び相手

最後に、7歳児が「よく遊ぶ」とした相手が誰であるのか、より詳しく見たものが表10である（複数回答）。約6割の子どもは、「同級生」、約2割の子どもは「年上の子」、約1割の子どもは「年上の子」を挙げているが、所得五分位で見ると、所得の高い層の方が低い層よりも「同級生」の率が高くなっており、所得の低い層の方が「年上の子」「年下の子」が多い。また、「大人（親、祖父母等）」の家族内の保護者、および「大人（家族以外）」と遊ぶ割合は、第1と第5五分位で若干高くなっている。「ひとりでよく遊ぶ」とした率は、第5五分位で突出して高くなっており、この点は興味深い。

<表10 よく遊ぶ相手（複数回答）、SES別>

5. 学校生活

次に、子どもの生活の中で特に重要な「場所」である「学校」を、子どもがどれほど楽しんでいるかを見てみることにしたい。子どもの学校生活がSESによって影響されていることは指摘されているものの（阿部 2008、子どもの貧困白書編集委員会 2009 等）、学力や不登校などの客観的な指標ではなく、子ども自身が学校生活を楽しんでいるかという観点からの分析は新しい。

表 1 1 は、「学校で友だちと合うのを楽しみにしている」「学校の勉強（体育・音楽などを含む）を楽しみにしている」「学校の給食を楽しみにしている」「学校の先生に会うのを楽しみにしている、信頼している」「学校の行事（遠足、運動会など）を楽しみにしている」の 5 つの質問に対して、「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の三つの選択肢の中から「はい」と答えた子どもの割合をSES別に示したものである。これを見ると、概ね 7 割から 9 割以上の 7 歳児は学校生活を「楽しみとしている」おり、学校生活が子どもたちにとってポジティブなものであることがわかる。しかしながら、ここにも、SESによってその肯定の度合いが異なっている。「友だちと会う」「給食」「行事」については、若干の差はあるものの、所得五分位、貧困ステータスによって、「楽しい」とする度合いはあまり変わらない。一方で、比較的に大きな差があるのが、「学校の勉強」と「先生」である。「勉強」については、第 5 五分位の子どもの 85.1%が「楽しい」としているが、第 1 五分位（貧困層）では 78.8%である。小学校 1 年生の 1 月と 7 月という学校生活の早い時期において、既にこのような差が生じていることは、その後の学力の差を説明するひとつの検討材料となるであろう。また、「学校の先生に会うのを楽しみにしているか、信頼しているか」の質問に足ししては概ね 7 割の子どもが「はい」と答えているが、第 1 五分位と第 5 五分位では、約 6 ポイントの有意な差がある。これは、リッジ (2002) によるイギリスの 11 歳から 15 歳の子どもの分析と同じ傾向を示している。すなわち、貧困層の子どもに比べ、富裕層の子どもの方が教師と良好な関係を築いている割合が多いことが、日本の 7 歳児のデータにおいても確認されたのである。

<表 1 1 学校生活、SES 別>

6. 食事（孤食と無食）

最後に、食事の取り方を、孤食と無食という観点から見てみる。表 1 2 は、朝食と夕食それぞれについて、「ほぼ毎日」か「時々」「ひとりで食べる」、「ほぼ毎日」か「時々」「食べない」と回答した子どもの率をSES別に計算したものである。どの質問においても、「ほぼ毎日」とした率（表外）は少ないものの、「時々」と合わせると、相当の高さの値となっている。朝食をほぼ毎日か時々「ひとりで食べる」とした 7 歳児は約 4 分の 1 であり、この率は貧困ステータスで見ると統計的に有意な差はないものの、所得五分位で見ると、第 1 から第 3 五分位で若干高く、第 4、第 5 と所得が上がるほど、少なくなっている。夕食についても、所得が高い層ほど「ひとりで食べる」率は低くなっている。朝食、夕食共に、孤食の状況は、貧困層が突出した高いというよりも、貧困層・中間層では大きな差がなく、裕福層にて低い率となっている点が、これまでの分析とは異

なる傾向である。また、ひとり親世帯とふた親世帯の比較では、ふた親世帯の方が孤食の割合が高いのが興味深い

朝食を「ほぼ毎日」か「時々」食べないとした率については、明らかに、貧困層が突出して高い。貧困ステータスで見ても、所得五分位の第1五分位で見ても、他の子どもたちの数倍の高さの率となっている。貧困層の子ども、ひとり親世帯の子どもが、朝食を「毎日」「時々」抜く率は約6%であり、学校でのパフォーマンスや栄養の観点からも好ましくない状況が特定のSES層に偏っている。夕食に関しては、「毎日」「時々」「食べない」とする子どもはわずかである(1%未満)。しかしながら、ここでも、貧困層の方が、そうでない世帯よりもその率は高い。

<表12 食事の取り方、SES別>

7. まとめ

本稿では、厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」(第7回)を用いて、7歳の子どもの社会生活において、社会経済階層(SES)による差異が生じているかを分析した。結果をまとめると、以下となる。

子どもの社会生活を語る多くの指標において、社会経済階層(SES)は決定的な差を生じさせているわけではない。多かれ、少なかれ、日本の7歳の子どもは、同じような社会経験をしている。しかしながら、その度合いは、SESによって、時には大きく、時にはわずかながら、異なり、結果として7歳の時点において子どもの社会生活には格差が生じていると結論づけることができる。懸念されるのは、その格差の中でも特に「子どもの社会生活」、「子どもの世界」から、子どもが排除されるという、「子どもの社会的排除」の状況が示唆される点である。貧困層の子どもは、そうでない子どもに比べて、父親、母親と過ごす時間が極端に短い子どもの割合が高く、ひとりで過ごす時間が極端に長い子どもの割合も高い。また、塾・習い事・スポーツクラブなど、費用を要する活動については、目立って大きな格差があり、その理由もあって、放課後を過ごす場所や一緒に過ごす相手、遊ぶ時の相手のバリエーションが少ない。友だちと遊ぶ時の友だちの人数も、所得が高い層ほど多く、一方で、休日には、所得が高い層は、友だちではなく親と過ごす子どもが多いと示唆するデータがある。食事を1人で食べたり、抜いたりする率も、貧困層の子どもはそうでない子どもに比べて有意に高い。

さらに、多くの7歳児が学校生活を「楽しんで」いるものの、その度合いについても、SESによる違いが見られた。特に、勉強と先生に関しては、格差が大きく、小学校1年生の時点でその格差が既に観察されることは、その後の学校生活の格差の大きさと深さを示す憂いある結果である。

参考文献

阿部彩(2011)「『21世紀出生児縦断調査』の分析」『厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)) 貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究(研究代表者:阿部彩)平成22年度報告書』。

阿部彩(2008a)『子どもの貧困』岩波書店。

- 阿部彩 (2008b) 「日本における子育て世帯の社会的排除と社会政策」社会政策学会編『子育てをめぐる社会政策－その機能と逆機能－ (社会政策学会誌第 19 号)』法律文化社, pp.21-41.
- 卯月由佳(2004) 「小中学生の努力と目標－社会的選抜以前の親の影響力－」 本田由紀編『女性の就業と親子関係：母親たちの階層戦略』勁草書房.
- 厚生労働省 (2009) 「相対的貧困率の公表について」平成 21 年 10 月 20 日報道発表資料.
- 子どもの貧困白書編集委員会編著(2009) 『子どもの貧困白書』明石書店.
- 西田芳正編著妻木進吾・長瀬正子・内田龍史著 (2011) 『児童養護施設と社会的排除』解放出版社.
- 西野淑美 (2007) 「第 1 回～第 4 回 2 1 世紀出生児縦断調査の脱落・移動の動向」厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「パネル調査 (縦断調査) に関する総合的分析システムの開発研究」平成 18 年度報告書、pp.55-58.
- 西野淑美 (2006) 「2 1 世紀出生児縦断調査における脱落・居住地移動・復活サンプルの分析」厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「パネル調査 (縦断調査) のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究」平成16～17年度総合報告書、pp.269-289.
- 福田節也 (2006) 「2 1 世紀出生児縦断調査における脱落要因の分析」厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「パネル調査 (縦断調査) のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究」平成 16～17 年度総合報告書、pp.237-255.
- 本田由紀 (2008) 「家庭教育をめぐる格差と混乱」社会政策学会編『子育てをめぐる社会政策 (社会政策学会誌第 19 号)』法律文化社.
- Lareau, A. (2003). Unequal childhoods: class, race, and family Life. Berkeley, University of California Press.
- Ridge, T. (2002). Childhood poverty and social exclusion: From a child's perspective. Bristol, The Policy Press.
- 山野良一 (2008) 『子どもの最貧国・日本』光文社.

	貧困層(*1)		非貧困層(*1)	
	11~12歳	13~15歳	11~12歳	13~15歳
停学・退学の経験	2%	14%	1%	4%
頻繁に無断欠席		11%		4%
いじめについて「大いに心配」		11%		4%
自分の教師が「好きではない」「嫌いだ」		29%		26%
教師はいつも自分を「目の敵にしている」と信じている	14%	39%	14%	23%
先生が自分のことをどう考えているのか気にしない		48%		28%
自分の成績(school work)について不満足		11%		5%
学校での成績は自分にとって大した意味はない		11%		5%
16歳到達後の将来予測				
16歳で学業修了	17%	31%	11%	10%
後期中等教育または継続教育に進学	37%	48%	67%	75%
わからない	46%	21%	22%	15%
(*1) 貧困層＝所得補助世帯、または求職者手当受給世帯で暮らす子ども				
非貧困層＝非受給世帯、				
サンプル総数＝720、うち貧困層は16%				
出所：Ridge (2002)				

表2 親との時間：7歳児が母親・父親と過ごす時間、SES別 全児童

すべての子ども	母親との時間(平日)1時間未満	母親との時間(休日)2時間未満	父親との時間(平日)1時間未満	父親との時間(休日)2時間未満	右4カテゴリーすべて
7年目貧困	5.7%	4.0%	52.6%	39.3%	1.6%
7年目非貧困	3.2%	2.0%	45.0%	9.6%	0.7%
χ^2	64.1134	61.721	76.4716	2580.2952	36.988
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001
7年目貧困(基準1)	5.8%	4.1%	58.0%	45.6%	1.9%
非貧困	3.3%	2.1%	44.9%	10.3%	0.7%
χ^2	43.3735	42.9429	151.417	2450.0694	38.2956
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001
1年目貧困	5.2%	3.6%	42.4%	22.1%	1.3%
1年目非貧困	3.3%	2.1%	46.4%	11.8%	0.7%
χ^2	38.3774	38.9129	24.4051	356.9109	16.7848
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001
所得階級5分位 (7年目の所得)					
第1分位	5.0%	3.5%	46.2%	29.6%	1.5%
第2分位	3.2%	2.2%	39.2%	10.8%	0.7%
第3分位	3.0%	2.0%	42.9%	8.4%	0.7%
第4分位	3.1%	1.8%	49.2%	7.5%	0.6%
第5分位	3.0%	1.8%	51.6%	7.7%	0.5%
	59.9079	70.2655	266.0847	2201.7064	49.4957
	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001
所得階級5分位 (1年目の所得)					
第1分位	5.1%	3.5%	40.8%	20.8%	1.3%
第2分位	3.4%	2.4%	40.8%	15.3%	0.8%
第3分位	3.4%	2.1%	46.2%	11.4%	0.7%
第4分位	3.1%	2.1%	48.7%	10.3%	0.8%
第5分位	3.0%	1.7%	51.2%	9.4%	0.5%
	55.9275	54.6591	245.7037	508.5897	23.4494
	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0001
世帯タイプ					
ふた親世帯	2.8%	1.7%	42.7%	7.9%	0.7%
母子世帯	6.4%	2.9%	100.0%	100.0%	1.8%
父子世帯	100.0%	100.0%	38.7%	12.9%	10.7%
χ^2	5469.5834	8422.3793	2505.0808	14146.2339	251.1201
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001

注：父親、母親がいない場合は、一緒に過ごす時間は0とみなす。

出所：「21世紀出生児縦断調査」から筆者計算。

表3 親との時間： 7歳児が母親・父親と過ごす時間、SES別 ふた親世帯のみ

ふた親世帯のみ	母親との時間(平日)1時間未満	母親との時間(休日)2時間未満	父親との時間(平日)1時間未満	父親との時間(休日)2時間未満	右4カテゴリーすべて1
7年目貧困	3.8%	2.8%	30.9%	11.5%	1.2%
7年目非貧困	2.7%	1.6%	43.8%	7.5%	0.7%
χ^2	10.5395	18.4843	153.7471	49.8989	8.1532
p	0.0012	<.0001	<.0001	<.0001	0.0043
7年目貧困(基準1)	4.0%	3.2%	32.2%	12.0%	1.3%
7年目非貧困	2.7%	1.6%	43.3%	7.6%	0.7%
χ^2	9.0419	21.0828	68.6923	36.4817	8.8788
p	0.0026	<.0001	<.0001	<.0001	0.0029
1年目貧困	3.5%	2.1%	33.4%	9.9%	1.0%
1年目非貧困	2.7%	1.6%	43.9%	7.6%	0.7%
χ^2	8.2783	4.8348	147.3508	24.7921	4.5892
p	0.004	0.0279	<.0001	<.0001	0.0322
所得階級5分位 (1年目の所得)					
第1分位	3.5%	2.5%	32.0%	10.9%	1.1%
第2分位	2.6%	1.7%	37.6%	8.3%	0.7%
第3分位	2.6%	1.6%	42.1%	7.1%	0.7%
第4分位	2.8%	1.5%	48.7%	6.5%	0.6%
第5分位	2.7%	1.4%	51.2%	6.9%	0.5%
	12.7534	24.7357	621.1198	102.0925	19.8716
	0.0125	<.0001	<.0001	<.0001	0.0005
所得階級5分位 (1年目の所得)					
第1分位	3.5%	2.1%	32.4%	9.4%	0.9%
第2分位	2.7%	1.9%	36.6%	9.3%	0.7%
第3分位	2.7%	1.5%	43.9%	7.5%	0.6%
第4分位	2.7%	1.7%	46.9%	7.2%	0.8%
第5分位	2.7%	1.4%	49.7%	6.6%	0.5%
	11.6103	11.7046	531.0823	57.563	10.3199
	0.0205	0.0197	<.0001	<.0001	0.0354

出所:「21世紀出生児縦断調査」から筆者計算。

表4 放課後：7歳児が放課後を過ごす場所（複数回答）、SES別

SES	自宅	学童保育	子どもの友だちの家	習い事・スポーツクラブ、学習塾等	戸外(公園等)	その他	不詳
7年目貧困	74.2%	28.8%	35.2%	21.6%	35.8%	7.1%	0.2%
7年目非貧困	77.4%	25.2%	42.5%	37.8%	43.6%	8.2%	0.1%
χ^2	19.5608	22.9013	74.1241	19.0474	83.622	4.7291	4.8745
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0297	0.0273
7年目貧困(基準1)	72.5%	31.3%	34.2%	21.2%	34.9%	6.7%	0.1%
非貧困	77.4%	25.2%	42.3%	37.2%	43.3%	8.1%	0.1%
χ^2	31.3668	46.1389	61.4379	255.4468	66.5946	6.8953	0.1243
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0086	0.7244
1年目貧困	74.9%	25.9%	37.5%	24.6%	38.3%	7.3%	0.3%
1年目非貧困	77.2%	25.6%	42.0%	37.4%	43.2%	8.1%	0.1%
χ^2	11.419	0.1983	33.2661	278.4705	37.5915	3.4657	12.4531
p	0.0005	0.6662	<.0001	<.0001	<.0001	0.0627	0.0004
所得階級5分位（7年目の所得）							
第1分位	76.6%	25.5%	37.7%	23.2%	37.6%	7.2%	0.2%
第2分位	80.4%	22.7%	45.0%	31.5%	44.0%	7.3%	0.1%
第3分位	79.7%	23.1%	45.3%	36.9%	45.9%	7.6%	0.1%
第4分位	78.4%	24.1%	43.7%	42.3%	46.5%	7.9%	0.0%
第5分位	70.2%	32.6%	36.7%	46.5%	39.8%	10.2%	0.1%
χ^2	264.1302	242.1754	196.9364	1015.018	173.4807	56.5987	11.793
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.019
所得階級5分位（1年目の所得）							
第1分位	75.2%	26.5%	38.0%	24.6%	38.7%	7.4%	0.2%
第2分位	78.3%	24.1%	42.3%	29.8%	42.2%	7.2%	0.1%
第3分位	80.4%	22.7%	44.8%	36.9%	44.9%	7.1%	0.1%
第4分位	79.0%	23.5%	44.0%	41.1%	45.7%	8.4%	0.1%
第5分位	71.8%	31.2%	37.9%	43.6%	40.7%	9.8%	0.1%
χ^2	209.5741	196.2044	128.1011	762.1809	98.0646	53.9805	10.8399
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0284
世帯タイプ							
ふた親世帯	78.4%	24.1%	42.7%	37.0%	43.7%	7.9%	0.1%
ひとり親世帯	52.9%	50.9%	21.8%	16.5%	25.4%	10.3%	0.3%
χ	759.0217	780.8608	374.5958	377.6127	283.5805	15.6476	4.3261
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0375

表5 放課後：7歳児が放課後を一緒に過ごす相手(複数回答)、SES別								
SES		ひとり	友だち	同居家族	別居家族	家族以外の大人	その他	n/a
	7年目貧困	5.4%	70.1%	71.4%	8.4%	3.6%	2.5%	0.2%
	7年目非貧困	5.1%	76.1%	74.5%	10.7%	5.2%	2.0%	0.1%
	χ^2	0.5496	648.587	16.7618	19.0474	18.3399	4.7291	2.3536
	p	0.4583	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0297	0.125
	7年目貧困(基準1)	5.2%	71.4%	70.0%	8.3%	3.2%	2.4%	0.1%
	非貧困	5.1%	75.7%	74.5%	10.6%	5.2%	2.0%	0.1%
	χ^2	0.0217	22.951	24.5836	13.7962	17.9551	1.2557	0.0175
	p	0.8829	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.2625	0.8947
	1年目貧困	5.3%	70.6%	71.9%	9.1%	3.5%	2.6%	0.2%
	1年目非貧困	5.1%	76.0%	74.2%	10.7%	5.2%	2.0%	0.1%
	χ^2	0.4535	60.9683	10.9813	10.7855	25.6832	7.4655	3.0994
	p	0.5007	<.0001	0.0009	0.001	<.0001	0.0063	0.0783
所得階級5分位 (7年目の所得)								
	第1分位	5.2%	70.3%	74.1%	8.4%	3.9%	2.2%	0.2%
	第2分位	4.4%	74.7%	77.8%	10.5%	4.3%	2.1%	0.0%
	第3分位	5.3%	76.7%	77.0%	10.4%	4.6%	1.8%	0.1%
	第4分位	5.3%	76.9%	75.5%	10.7%	5.9%	1.7%	0.0%
	第5分位	5.4%	78.6%	66.4%	12.4%	6.5%	2.4%	0.1%
	χ^2	9.6148	154.7921	303.7331	59.9673	69.0733	10.6601	9.4939
	p	0.0474	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0307	0.0499
所得階級5分位 (1年目の所得)								
	第1分位	5.3%	70.9%	72.4%	9.2%	3.8%	2.6%	0.2%
	第2分位	5.2%	73.6%	75.0%	11.0%	4.6%	1.8%	0.1%
	第3分位	5.1%	76.0%	77.6%	8.9%	4.4%	2.0%	0.1%
	第4分位	5.0%	76.7%	76.2%	10.2%	5.4%	1.8%	0.1%
	第5分位	5.1%	78.4%	68.5%	12.7%	6.5%	2.1%	0.0%
	χ^2	1.3348	126.2775	207.6347	73.449	70.3409	13.3	7.0656
	p	0.8554	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001	0.0099	0.1325
世帯タイプ								
	ふた親世帯	5.1%	75.3%	75.5%	10.3%	5.1%	2.0%	0.1%
	ひとり親世帯	5.5%	76.6%	49.4%	13.3%	3.5%	2.3%	0.1%
	χ	0.6394	2.164	730.3135	20.2683	11.9676	0.815	0.2469
	p	0.4239	0.1413	<.0001	<.0001	0.0005	0.3667	0.6192

表6 塾・習い事・スポーツクラブのある日数(週)、SES別

SES	していない	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	平均*1
7年目貧困	44.4%	21.8%	16.7%	8.9%	4.9%	2.1%	0.8%	0.4%	1.194
7年目非貧困	23.1%	24.2%	22.6%	16.0%	8.2%	3.9%	1.3%	0.6%	1.818
X ²	831.0012								
p	<.0001								
7年目貧困(基準1)	45.9%	21.1%	16.6%	8.5%	4.7%	2.1%	0.5%	0.5%	1.159
非貧困	23.9%	24.2%	22.4%	15.8%	8.1%	3.8%	1.3%	0.6%	1.796
X ²	602.3037								
p	<.0001								
1年目貧困	40.4%	20.7%	17.5%	11.5%	5.3%	3.1%	1.0%	0.4%	1.360
1年目非貧困	23.7%	24.3%	22.6%	15.7%	8.1%	3.7%	1.3%	0.6%	1.795
X ²	563.1399								
p	<.0001								
所得階級5分位(7年目の所得)									
第1分位	42.2%	22.6%	17.4%	9.5%	4.8%	2.1%	0.8%	0.4%	1.233
第2分位	31.0%	25.9%	20.5%	12.2%	6.4%	2.8%	0.8%	0.5%	1.514
第3分位	23.9%	25.8%	23.3%	15.1%	7.1%	3.3%	1.0%	0.5%	1.722
第4分位	18.2%	24.3%	24.7%	18.2%	8.5%	4.0%	1.5%	0.6%	1.955
第5分位	11.8%	21.4%	24.2%	21.2%	12.4%	6.1%	2.1%	0.9%	2.323
X ²	2446.704								
p	<.0001								
所得階級5分位(1年目の所得)									
第1分位	39.8%	21.2%	18.1%	10.9%	5.5%	3.0%	1.1%	0.4%	1.363
第2分位	33.3%	23.7%	19.6%	12.8%	6.2%	2.7%	1.2%	0.4%	1.501
第3分位	25.0%	24.9%	23.0%	14.8%	7.1%	3.5%	1.0%	0.5%	1.716
第4分位	20.3%	24.8%	24.1%	16.7%	8.5%	3.8%	1.2%	0.7%	1.880
第5分位	14.3%	24.2%	24.0%	19.3%	10.9%	4.9%	1.6%	0.8%	2.137
X ²	175.8222								
p	<.0001								
世帯タイプ									
ふた親世帯	24.4%	24.2%	22.3%	15.5%	8.0%	3.7%	1.3%	0.6%	1.776
ひとり親世帯	46.2%	19.0%	16.6%	9.7%	4.8%	2.1%	1.1%	0.5%	1.209
X	508.2537								
p	<.0001								

*1) 平均は「わからない」と「欠損」を除くサンプルの中での平均値。

表7 ひとりの時間(平日):7歳児が下校から就寝までの間にひとりで過ごす時間(*1)、SES別

SES	30分未満	30分~1時間	1時間~2時間	2時間~3時間	3時間~4時間	4時間~5時間	5時間~6時間	6時間以上	平均*2	(再掲)1時間以上	(再掲)2時間以上		
7年目貧困	18.2%	12.2%	7.6%	1.4%	0.6%	0.4%	0.3%	0.0%	0.476	10.3%	2.8%		
7年目非貧困	22.1%	11.6%	6.4%	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.441	8.6%	2.2%		
X2													
P													
7年目貧困(基準1)	17.4%	12.1%	7.9%	1.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.0%	0.484	10.8%	2.9%		
非貧困	22.0%	11.6%	6.4%	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.442	8.7%	2.2%		
X2													
P													
1年目貧困	18.2%	11.6%	7.2%	1.4%	0.5%	0.4%	0.3%	0.1%	0.463	9.9%	2.7%		
1年目非貧困	22.0%	11.6%	6.5%	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.446	8.8%	2.3%		
X2													
P													
所得階級5分位(7年目の所得)													
第1分位	18.8%	11.4%	6.8%	1.3%	0.6%	0.3%	0.2%	0.1%	0.449	9.4%	2.6%		
第2分位	21.7%	11.7%	6.0%	1.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%	0.421	7.9%	1.9%		
第3分位	22.7%	11.7%	5.7%	1.2%	0.4%	0.3%	0.2%	0.0%	0.429	7.8%	2.1%		
第4分位	22.9%	10.9%	6.7%	1.4%	0.6%	0.3%	0.1%	0.0%	0.448	9.1%	2.4%		
第5分位	22.5%	12.7%	7.5%	1.4%	0.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.478	9.8%	2.3%		
X2													
P													
所得階級5分位(1年目の所得)													
第1分位	18.6%	11.5%	7.3%	1.4%	0.5%	0.4%	0.4%	0.1%	0.472	10.1%	2.8%		
第2分位	20.7%	11.1%	6.0%	1.2%	0.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.414	8.1%	2.1%		
第3分位	22.6%	11.3%	6.9%	1.4%	0.4%	0.3%	0.2%	0.0%	0.455	9.2%	2.3%		
第4分位	22.8%	12.1%	6.4%	1.3%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	0.456	8.8%	2.4%		
第5分位	22.2%	12.0%	6.4%	1.2%	0.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.447	8.6%	2.2%		
X2													
P													
世帯タイプ													
二親世帯	21.9%	11.5%	6.5%	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.0%	0.442	8.7%	2.2%		
ひとり親世帯	15.4%	13.0%	8.4%	2.2%	1.1%	0.4%	0.5%	0.2%	0.557	12.8%	4.4%		
X													
P													

*1) 家族等が自宅にいて、子どもが子ども部屋等でひとりで過ごしている場合を含む

*2) 平均は「欠損」を除くサンプルの中で、「ない」=0、「30分未満」=0.5、「30分~1時間」=1、...、「6時間以上」は6とした場合の平均値。

SES	友だちと遊ばない	1人	2人	3人以上	わからない	欠損	平均*1
7年目貧困	9.3%	17.5%	20.8%	44.5%	6.5%	1.6%	2.093
7年目非貧困	7.3%	18.7%	22.1%	45.9%	4.8%	1.3%	2.134
χ^2	46.3166						
p	<.0001						
7年目貧困(基準1)	8.7%	17.2%	20.6%	45.5%	6.4%	1.5%	2.119
非貧困	7.4%	18.7%	22.1%	45.7%	4.8%	1.3%	2.131
χ^2	22.7841						
p	0.0004						
1年目貧困	8.3%	16.4%	22.1%	43.9%	7.2%	2.1%	2.119
1年目非貧困	7.4%	18.7%	21.8%	45.9%	4.8%	1.3%	2.133
χ^2	74.9952						
p	<.0001						
所得階級5分位 (7年目の所得)							
第1分位	8.7%	18.0%	22.0%	43.8%	5.9%	1.7%	2.090
第2分位	7.4%	19.5%	22.5%	44.3%	4.8%	1.5%	2.106
第3分位	6.4%	19.2%	23.1%	45.4%	4.5%	1.4%	2.143
第4分位	6.9%	19.0%	22.6%	45.9%	4.6%	1.0%	2.138
第5分位	8.0%	17.1%	19.6%	49.1%	5.0%	1.1%	2.170
χ^2	127.8684						
p	<.0001						
所得階級5分位 (1年目の所得)							
第1分位	8.1%	16.5%	22.5%	44.2%	6.7%	2.0%	2.126
第2分位	7.3%	18.3%	22.8%	44.8%	5.2%	1.6%	2.129
第3分位	7.0%	19.5%	22.1%	45.5%	4.4%	1.5%	2.128
第4分位	6.6%	20.2%	22.2%	45.5%	4.2%	1.2%	2.127
第5分位	8.6%	17.3%	20.0%	47.9%	5.3%	1.0%	2.143
χ^2	175.8222						
p	<.0001						
世帯タイプ							
ふた親世帯	7.6%	18.8%	22.1%	45.2%	4.9%	1.5%	2.121
ひとり親世帯	6.6%	12.6%	18.0%	52.8%	8.7%	1.2%	2.300
χ	146.5653						
p	<.0001						

*1) 平均は「わからない」と「欠損」を除くサンプルの中で、「3人以上」は3とした場合の平均値。

SES	友だちと遊ばない	1人	2人	3人以上	わからない	欠損	平均*1
7年目貧困	46.3%	14.0%	13.1%	21.7%	3.6%	1.4%	1.106
7年目非貧困	52.5%	12.9%	12.7%	18.0%	2.9%	1.0%	0.960
χ^2	63.9441						
p	<.0001						
7年目貧困(基準1)	45.7%	13.5%	13.0%	22.8%	3.7%	1.4%	1.136
非貧困	52.3%	13.0%	12.7%	18.0%	3.0%	1.0%	0.963
χ^2	56.1234						
p	<.0001						
1年目貧困	45.8%	13.0%	14.4%	21.0%	4.3%	1.7%	1.112
1年目非貧困	52.5%	13.0%	12.5%	18.0%	2.9%	1.1%	0.958
χ^2	99.3045						
p	<.0001						
所得階級5分位 (7年目の所得)							
第1分位	46.7%	13.8%	13.9%	20.6%	3.5%	1.4%	1.088
第2分位	50.3%	13.5%	12.7%	19.2%	3.1%	1.0%	1.009
第3分位	52.8%	12.7%	13.1%	17.4%	3.0%	1.0%	0.949
第4分位	54.2%	12.3%	12.6%	17.3%	2.8%	0.8%	0.928
第5分位	55.2%	12.6%	11.3%	17.3%	2.5%	1.0%	0.904
χ^2	149.5653						
p	<.0001						
所得階級5分位 (1年目の所得)							
第1分位	45.5%	13.3%	14.2%	21.3%	4.0%	1.6%	1.119
第2分位	48.5%	13.4%	13.5%	19.9%	3.5%	1.2%	1.050
第3分位	52.4%	12.8%	13.1%	18.0%	2.8%	1.0%	0.966
第4分位	55.1%	12.5%	11.9%	16.7%	2.7%	1.1%	0.897
第5分位	55.4%	13.0%	11.6%	16.6%	2.7%	0.8%	0.891
χ^2	248.9964						
p	<.0001						
世帯タイプ							
ふた親世帯	52.4%	12.8%	12.6%	18.1%	3.0%	1.1%	0.963
ひとり親世帯	41.2%	16.1%	15.0%	22.1%	3.9%	1.6%	1.191
χ	104.9789						
p	<.0001						

*1) 平均は「わからない」と「欠損」を除くサンプルの中で、「3人以上」は3とした場合の平均値。

表10 友だち：7歳児が以下の相手と「よく遊ぶ」とした割合、SES別

SES	同級生	年上の子	年下の子	きょうだい	大人(親、祖 父母等)	大人(家族 以外)	ひとり
7年目貧困	55.2%	24.5%	12.5%	74.8%	47.3%	4.5%	17.8%
7年目非貧困	59.5%	22.6%	11.8%	76.5%	46.4%	3.6%	19.4%
χ^2	26.2774	6.6646	1.611	5.4666	1.056	7.7084	5.0097
p	<.0001	0.0098	0.2043	0.0194	0.3041	0.0055	0.0252
7年目貧困(基準1)	55.1%	25.2%	12.9%	72.3%	47.3%	4.5%	19.0%
非貧困	59.4%	22.6%	11.8%	76.6%	46.4%	3.6%	19.2%
χ^2	17.5541	8.9114	2.709	23.3237	0.6829	5.2914	0.0488
p	<.0001	0.0028	0.0998	<.0001	0.4086	0.0214	0.8252
1年目貧困	56.7%	24.6%	12.7%	74.7%	45.7%	4.3%	18.3%
1年目非貧困	59.3%	22.5%	11.8%	76.2%	46.6%	3.7%	19.3%
χ^2	11.3431	10.369	3.6485	5.1938	1.2523	4.5377	2.4457
p	0.0008	0.0013	0.0561	0.0227	0.2631	0.0332	0.1178
所得階級5分位 (7年目の所得)							
第1分位	55.8%	24.1%	13.1%	77.7%	48.1%	4.2%	17.6%
第2分位	58.1%	22.6%	12.7%	82.2%	46.5%	3.3%	17.1%
第3分位	59.9%	22.6%	12.3%	80.3%	45.6%	3.6%	17.8%
第4分位	61.1%	22.6%	11.5%	74.9%	44.9%	3.2%	20.4%
第5分位	60.4%	22.1%	9.9%	66.5%	47.3%	4.1%	23.1%
χ^2	52.0075	9.4261	42.4832	579.3510	18.1428	16.0660	116.3322
p	<.0001	0.0513	<.0001	<.0001	0.0012	0.0029	<.0001
所得階級5分位 (1年目の所得)							
第1分位	56.6%	25.0%	12.8%	76.1%	46.2%	4.4%	17.7%
第2分位	57.8%	25.5%	11.9%	80.6%	45.3%	3.8%	16.8%
第3分位	58.9%	23.2%	12.2%	78.5%	45.3%	3.1%	18.5%
第4分位	60.0%	20.7%	11.9%	74.8%	46.4%	3.5%	19.9%
第5分位	60.9%	20.2%	10.8%	70.8%	48.7%	4.0%	22.2%
χ^2	34.2812	97.8522	14.2590	232.7268	24.1243	17.7363	87.9381
p	<.0001	<.0001	0.0065	<.0001	<.0001	0.0014	<.0001
世帯タイプ							
ふた親世帯	58.9%	22.2%	11.7%	77.5%	46.3%	3.6%	18.9%
ひとり親世帯	59.4%	31.1%	14.4%	53.4%	48.8%	6.9%	22.8%
χ	0.1976	93.2444	14.2239	656.7041	5.1284	62.3517	20.3259
p	0.6567	<.0001	0.0002	<.0001	0.0235	<.0001	<.0001

注：割合は、回答者の中でそれぞれのカテゴリーの相手と遊ぶ頻度として「よく遊ぶ」「ときどき遊ぶ」「殆ど遊ばない」の3択から「よく遊ぶ」と答えた割合。

表11 学校生活：7歳児の学校で楽しみとした割合、SES別

SES	学校で友達と会うの を楽しみにしている	学校の勉強(体育・音 楽などを含む)を楽し みにしている	学校の給食を楽し みにしている	学校の先生に会う のを楽しみにしてい る、信頼している	学校の行事(遠 足、運動会など)を 楽しみにしている
7年目貧困	91.8%	78.7%	75.2%	72.6%	93.0%
7年目非貧困	93.0%	82.0%	77.2%	76.1%	94.7%
χ^2	7.0555	25.3622	7.9474	22.579	18.0348
p	0.0079	<.0001	0.0048	<.0001	<.0001
7年目貧困(基準1)	92.0%	79.0%	75.1%	72.7%	92.9%
非貧困	93.0%	81.9%	77.1%	76.0%	94.6%
χ^2	3.3871	12.6742	5.1421	13.2446	14.0943
p	0.0657	0.0004	0.0234	0.0003	0.0002
1年目貧困	92.1%	78.3%	75.8%	72.2%	93.4%
1年目非貧困	93.0%	82.0%	77.0%	76.1%	94.6%
χ^2	3.9991	35.9076	3.4293	32.2633	10.622
p	0.0455	<.0001	0.0641	<.0001	0.0011
所得階級5分位 (7年目の所得)					
第1分位	91.9%	78.8%	76.1%	72.9%	93.5%
第2分位	92.6%	79.8%	77.0%	74.3%	94.3%
第3分位	93.1%	81.2%	77.0%	75.7%	94.4%
第4分位	93.3%	83.4%	77.4%	76.9%	95.1%
第5分位	93.5%	85.1%	77.5%	78.9%	95.3%
χ^2	18.1791	121.1264	4.8099	81.3001	27.8019
p	0.0011	<.0001	0.3074	<.0001	<.0001
所得階級5分位 (1年目の所得)					
第1分位	92.0%	78.3%	76.1%	72.5%	93.7%
第2分位	92.5%	80.0%	76.5%	74.2%	94.0%
第3分位	92.9%	81.3%	76.9%	75.0%	94.4%
第4分位	93.6%	83.3%	77.1%	77.1%	94.9%
第5分位	93.1%	83.9%	77.6%	78.4%	94.9%
χ^2	16.7731	102.2418	5.5323	84.0567	15.9939
p	0.0021	<.0001	0.2369	<.0001	0.003
世帯タイプ					
ふた親世帯	92.9%	81.7%	76.9%	75.9%	94.5%
ひとり親世帯	91.8%	79.0%	76.9%	71.6%	93.7%
χ	4.0858	10.0299	0.0002	21.028	2.159
p	0.0432	0.0015	0.9891	<.0001	0.1417

表12 孤食：7歳児が孤食、食事抜きとした割合、SES別

SES	朝食をほぼ毎日 か時々ひとりで食 べる	夕食をほぼ毎日 か時々ひとりで食 べる	朝食をほぼ毎日 か時々食べない	夕食をほぼ毎日か 時々食べない
7年目貧困	25.3%	16.8%	6.5%	1.1%
7年目非貧困	25.3%	15.5%	3.1%	0.5%
χ^2	0.0007	4.8841	114.1059	17.7248
p	0.9789	0.0271	<.0001	<.0001
7年目貧困(基準1)	24.2%	16.1%	6.2%	1.3%
非貧困	25.3%	15.6%	3.3%	0.5%
χ^2	1.5243	0.5884	56.1701	20.0529
p	0.217	0.4431	<.0001	<.0001
1年目貧困	27.2%	17.0%	6.2%	0.9%
1年目非貧困	24.8%	15.4%	3.1%	0.6%
χ^2	11.4831	8.0032	103.8349	7.5125
p	0.0007	0.0047	<.0001	0.0061
所得階級5分位（7年目の所得）				
第1分位	26.3%	16.6%	5.6%	0.9%
第2分位	27.1%	16.7%	3.9%	0.8%
第3分位	26.4%	15.6%	3.5%	0.6%
第4分位	24.9%	15.2%	2.6%	0.4%
第5分位	21.7%	13.9%	1.8%	0.3%
χ^2	68.9649	29.0575	164.983	23.3394
p	<.0001	<.0001	<.0001	0.0001
所得階級5分位（1年目の所得）				
第1分位	27.0%	17.4%	5.9%	0.9%
第2分位	27.8%	17.0%	4.5%	0.9%
第3分位	26.6%	16.0%	3.6%	0.6%
第4分位	24.3%	14.5%	2.4%	0.5%
第5分位	20.8%	13.5%	1.8%	0.3%
χ^2	129.1115	61.4831	211.6323	33.2403
p	<.0001	<.0001	<.0001	<.0001
世帯タイプ				
ふた親世帯	25.4%	15.6%	3.3%	0.6%
ひとり親世帯	20.8%	14.3%	6.4%	0.7%
χ	22.9357	2.67	57.5424	0.7003
p	<.0001	0.1023	<.0001	0.4027

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))
「子育て世帯のセーフティネットに関する総合的研究」
平成 22 年度分担研究報告書
「子どものいる外国人世帯の生活実態
—2009 年静岡県多文化共生アンケート調査を用いた分析—」
研究分担者 千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所)

研究要旨

近年、外国人の滞在が長期化するにつれ、不就学など外国籍の子どもの教育についても大きな関心が寄せられている。しかし、外国人にかかわる問題はそれぞれ個別に議論されており、外国人の世帯、特に子どもを持つ世帯がどのような生活状況に置かれているか、という観点から総合的に分析されることはほとんどなかった。本稿では、2009 年に静岡県において実施された「静岡県多文化共生アンケート調査」を用い、子どもがいるブラジル人世帯の状況を、親、世帯、そして子ども自身に関する指標から多角的に把握する。

分析から、同じ第一世代の子どもでは、ブラジル生まれの子どもの親よりも、日本生まれの子どもの親の方が、日本語能力や健康保険加入割合が高く、子どもにとってよりセーフティ・ネットが整備された環境にあることがわかった。第二に、日本生まれの子どもの親の方がブラジル生まれの子どもの親よりも通算滞在年数が長いにもかかわらず、両者の間には、従業上の地位に有意な差は見られなかった。第三に、子どもの教育に関わる悩みは、日本生まれの子どもを持つ親の方で高く、将来の滞在予定が子どもの教育に影響を及ぼすことが示唆される。以上のことから、滞在年数が長期化すると共に、セーフティ・ネットは整備されつつあると言えるが、長期化しても親の従業上の地位に変化が見られず、より安定した生活は困難な状況にある。このような背景のもと、親の滞在予定にも迷いがみられ、それが子どもの教育に影響を及ぼしている可能性が示唆される。

A. 研究目的

本稿では、2009年に静岡県が実施した「静岡県多文化共生アンケート調査」を使用して、子どもがいるブラジル人世帯の状況を、親、世帯、そして子ども自身に関する指標から多角的に把握することを通じて、子どもたちの間に存在する育成環境の差を明らかにする。

B. 研究方法

「静岡県多文化共生アンケート調査」を使用して、ブラジル国籍の子どもを持つ親、

その子どもが属する世帯、そして子ども自身を表す様々な指標を用いて、彼らが置かれている状況を多角的に把握する。

C. 研究結果及び考察

第1に、同じブラジル国籍の子どもでも、日本生まれの子どもの親の方が、ブラジル生まれの子どもの親よりも日本語能力や健康保険加入割合が高い。親の日本における通算滞在年数が前者の方で長いためだろうが、日本生まれの子どもの方がよりセーフティ・ネットが整備された環境にあると言

える。

第2に、日本生まれの子どもの親の方が、ブラジル生まれの子どもの親よりも日本における通算滞在年数が長いにもかかわらず、両者間に従業上の地位に関して有意な差は見られなかった。換言すれば、日本にどれほど長く滞在しようとも、一度非正規就業に着いてしまったら、正規就業に就くのは至難の業となる。そのためか、日本生まれの子どもの親の方が日本語能力は高いにもかかわらず、世帯年収にも、支払いの滞りがある対象者の割合にも、有意な差はみられなかった。

第3に、子どもの教育に関わる悩みは、日本生まれの子どもを持つ親の方で高かった。ブラジル生まれの子どもの方が、「学校に行っていない」や「中退」が多いにもかかわらず、親の悩みは日本生まれの子どもの親の方で高い。この違いは、子どもの将来の教育を日本（日本生まれの子どもの親）で受けさせたいと希望するのか、母国（ブラジル生まれの子どもの親）で受けさせたいと希望するのか、で異なるようである。親の将来の予定（滞在国）が未定の場合、子どもの教育の継続性に大きな問題となることが示唆される。

D. 知的財産権の出願・登録状況

なし

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表・学会発表

1. 論文発表

- ・ 千年よしみ（2010）「生活に困難を抱える外国籍住民の状況：2009年静岡

県多文化共生アンケート調査の結果から」「Migrants Network」Aug-Sep No.132 移住労働者と連帯する全国ネットワーク

2. 学会発表

- ・ “Socioeconomic Risk among Children in Immigrant Families”, presented at International Workshop on Safety Net for Child-rearing Families on 2011/Feb/8

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

子どものいる外国人世帯の生活実態
－2009年静岡県多文化共生アンケート調査を用いた分析－

千年よしみ
(国立社会保障・人口問題研究所)

2011年3月

はじめに

これまで日本における外国人を対象とした研究においては、就労状況や雇用システム、集住傾向や医療の問題に多く焦点があてられてきた(例えば、丹野 2007, 池上 2001)。また、近年、外国人の滞在が長期化するにつれ、不就学など子どもの教育についても大きな関心が寄せられている(宮島・太田 2005, 志水 2008, 佐久間 2006)。しかし、外国人に関わる問題はそれぞれ個別に議論されており、外国人の世帯、特に子どもを持つ世帯がどのような生活状況に置かれているか、という視点から総合的に分析されることは、日本においてはほとんど無かった。2008年のリーマン・ショック以後、日本人の間においてさえも貧困が問題となっている。外国人に関する公式統計は得られないため、確実な数値は不明だが、貧困の度合いは外国人世帯においては更に深刻であろう。現に多くの外国人が「派遣切り」にあって失業に陥るなど、生活困難な状況にあることが指摘されている(移住連貧困プロジェクト 2009; 稲葉・樋口 2010)。

外国人の日本における滞在が、一時的滞在ではなく居住と言えるレベルにある今日、特に外国籍住民の子どものいる世帯がどのような状況にあるかを総合的に把握することは、喫緊の課題である。なぜなら、数・割合共にまだ少数とはいえ、外国人世帯で育つ子どもの中には、日本で生まれ育つ子どもも増えており、日本にこのまま居住し成人となる可能性が非常に高い。彼らは親の国で暮らした経験も無ければ、親の国の言語の読み書き能力も未熟である場合が少なくない。このような子ども達にとっては、日本がまさに母国なのである。現在、子ども達が育っている環境は、彼らの将来に大きな影響を及ぼすだろう。そして、彼らの現状を把握することは、彼らの日本における将来の生活がある程度描き出すことにつながるだろう。もし、外国人世帯で育つ子どもが日本人よりも学校や家庭において著しく不利な状況に置かれているならば、将来、彼らのアンダークラス化が危惧される。

移民先進国である米国においては、移民第2世代の研究が盛んであり(Zhou and Bankston 1998; Kasinitz et al. 2008)、米国における彼らの適応状況の複雑さや、その規定要因に関する研究が盛んに行われている。米国において、第2世代の子どもの研究が活発に行われていることの一つの理由の一つに、彼らの人口に占める割合の大きさがあ